奈良県の世界遺産

藤原宮跡と香具山

法隆寺

WORLD HERITAGE SITES IN NARA

NARA PREFECTURE 奈良県

興福寺
写真提供：一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー
写真：矢野達彦

吉野山
写真提供：一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー
写真：小亀晶子

酒船石遺跡

世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原」

飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群（2007年暫定リスト記載）

「飛鳥・藤原」は、県内で4件目の世界文化遺産登録を目指す遺跡群です。「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として、平成19年に世界文化遺産の暫定一覧表に記載されました。

「飛鳥・藤原」は古墳時代の終わる6世紀末から平城京遷都までの約100年間に、中国、朝鮮半島との交流を基に中央集権体制を採用した国づくりが行われたことを示す資産です。橿原市、桜井市、明日香村にある宮殿跡、仏教寺院跡、墳墓などの遺跡で構成されています。

このうち、古代日本の中心地である「飛鳥・藤原」におかれた飛鳥宮跡と藤原宮跡の2つの宮殿遺跡が中核となります。飛鳥宮跡は一カ所に歴代の天皇が宮殿を構えることで、天皇の住まいが政治の場へと変化したことがわかる宮殿遺跡です。

大和三山に囲まれた藤原宮跡は、碁盤目状に区画された都城の中心に置かれ、大極殿を中心とした官衙が整然と立ち並ぶ、中央集権体制を表した中国式の宮殿です。藤原宮跡で採用された宮殿構造や計画的な都市設計は、その後の平城京、平安京へも強い影響を与えています。

1 飛鳥宮跡

2 飛鳥京跡苑池

3 飛鳥水落遺跡

4 酒船石遺跡

13 藤原宮跡・藤原京朱雀大路跡

14 大和三山（写真左から香具山、畝傍山、耳成山）

協力：世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会

6世紀半ば、中国、朝鮮半島を経由して日本に仏教が伝来しました。6世紀末に建てられた日本初の本格的伽藍を備えた寺院である飛鳥寺は、仏教の伝来とともに、土木や建築を初めとした最新技術や知識を取り入れたことを示しています。その後、仏教受容と寺院造営が奨励され、飛鳥寺、山田寺、橘寺、檜隈寺など、有力氏族は競って寺院を建て始めました。

さらに天皇家の発願により川原寺が造営され、仏教は次第に国家の統治機構に組み入れられていきます。

飛鳥から藤原へと宮殿が遷る頃には、大官大寺や本薬師寺など、あらかじめ藤原京の都市設計に組み込まれた、国家鎮護を目的とした寺院が現れました。

5 飛鳥寺跡

6 橘寺跡（橘寺境内）

7 山田寺跡

8 川原寺跡

9 檜隈寺跡

11 菖蒲池古墳

15 大官大寺跡

16 本薬師寺跡

10 石舞台古墳

12 牽牛子塚古墳

17 天武・持統天皇陵古墳

18 中尾山古墳

「飛鳥・藤原」以前の古墳時代、大王や有力氏族は、巨大な前方後円墳を頂点とする古墳の築造により政治秩序を示す、独自の文化を形成してきました。しかし、中国や朝鮮半島の影響を受けた新たな国づくりにともない、古墳の規模や形状にも変化が現れます。

最上位層の古墳は、石舞台古墳、菖蒲池古墳など、前方後円墳から大陸風の方墳へと変化しました。さらに中央集権体制の整備が進み、牽牛子塚古墳、天武・持統天皇陵古墳、中尾山古墳など、八角形の墳墓を創り出し、墳墓の頂点に位置づけました。

また、極彩色の壁画を石室内に描いたキトラ古墳や高松塚古墳は、遣唐使に代表される中国や朝鮮半島との国際交流を物語る墳墓です。

19 キトラ古墳

20 高松塚古墳